

琵琶湖周辺における自転車利用者の文化財への立ち寄りに関する研究

A Study on the behavior of Bicycle Users' stopping at Cultural property around the Lake Biwa

潘 凱玥
PAN KAIYUE

1. はじめに

(1) 背景と目的

現在、自転車道路と観光資源との連携を図るサイクルツアー推進事業が各地で行われ、観光地でも地域観光の活性化という視点から、地域に点在している地域固有の資源を巡る、周遊型観光の手段として自転車が有効と考えられる。特に近年は、自転車道路の整備なども全国各地で行われている。自転車利用者にとって、サイクルツアーは自転車で走る楽しさと、地域固有の資源である文化財の楽しみを併せて検討する必要があるが、未だ研究は少ないである。

本研究は、長距離サイクリングルートが設定され、周辺に多くの文化財がある琵琶湖において、自転車利用者の、面的な広がりをもつ「回り道行動」における琵琶湖周辺の文化財への立ち寄りの実態を把握し、自転車利用における文化財利用の関係を明らかにする。具体的には、①設定されたサイクルルートと文化財の関係、②自転車利用者の「回り道行動」において立ち寄りを促す文化財の条件、を明らかにし、今後の琵琶湖周辺における、文化財とサイクルルート連携の可能性および実現化手法を検討する。

(2) 対象地

日本最大の湖である琵琶湖周辺には、多くの文化財が存在しており、平成 27 年に日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」が認定された。琵琶湖を自転車で琵琶湖を一周できる長距離サイクリングルートとしてビワイチが設定された。琵琶湖から離れて県全体を巡るビワイチ・プラスも設定されている (11 コース)。

(3) 研究方法

設定されたサイクルルートと文化財の関係を把握するため、メディアに掲載されている国指定も含む文化財とサイクルルート、文化財同士間、ビワイチと他のルート間の距離を計測した。目安として、自転車の活用が期待できる距離帯であり、簡易休憩所設置間隔である約 5km と、休憩所設置間隔の 10 km を使用した (「自転車道等の設計基準解説 (昭和 49 年 10 月)」)。次に、自転車利用者による回り道行動における文化財利用の実態調査を把握するため、例年来訪者が多い時期である 2022 年 10 月 8 日 (土) 及び 10 月 9 日 (日) に、自転車利用者を対象にアンケート調査を行った。調査地は、琵琶湖全体を網羅するため、自転車利用者が多く訪れる南部のサイクリ

ストの聖地碑と、北部の道の駅湖北みずどりステーションで実施した。合計 159 件回収した。質問項目は大きく、①研究協力者の基本属性②サイクリングの経験③ビワイチに対する認識④今回のサイクリングの実態である。

表 1 日程別場所別アンケート回収数

	10月8日	10月9日	合計
サイクリストの聖地碑	53件	24件	77件
湖北みずどりステーション	61件	21件	82件
合計	114件	45件	159件

2. 琵琶湖周辺の文化財とサイクルルート

(1) メディア掲載文化財とビワイチの距離関係

滋賀県内市指定文化財以上の文化財は、2022 年 12 月現在 414 か所あった。一般に市販されているガイドブックとビワイチホームページ及び公式アプリに掲載されている文化財は 93 か所であった。ビワイチからの距離範囲は、自転車による走行を享受しながら立ち寄れるかを把握するため、2.5km 圏内、2.5 km~5.0km 圏内、5.0km 圏以上として、それぞれの距離範囲にある文化財を把握した。49 か所 (52.7%) が 2.5 km 圏内、13 か所 (14%) が 2.5 km~5.0km 圏内、31 か所が 5 km 圏以上にあった。文化財の多くはビワイチ利用者が活用しやすい距離範囲にあるといえる。

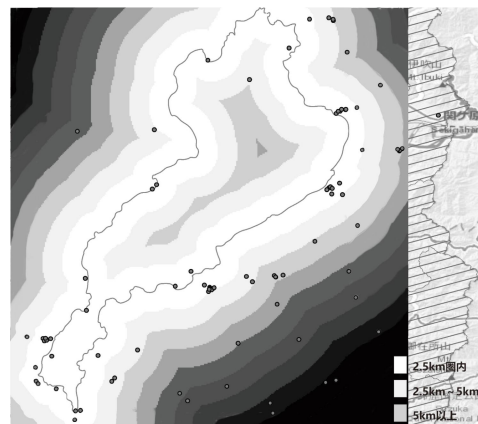


図 1 ビワイチと文化財との距離関係

(2) 文化財同士の距離

平成 30 年から令和 2 年に至る滋賀県における 3

年間の観光入込観光客数 30 位以内に入っている文化財（10 件）は、琵琶湖北側から東側を経て南側にかけて分布していた。日牟礼八幡宮 - 太郎坊宮、多賀大社 - 彦根城間の直線距離は 10 km 前後であり、上級者以上の自転車利用者が活用しやすい距離感にあるといえ、これら来訪者数の多い文化財だけを自転車で巡らせるのは困難といえ、文化財巡りの媒介としてビワイチを利用することが有効であるといえる。

3. 自転車利用者による文化財巡りの実態

(1) 属性ごとの文化財巡りの特徴

回答者の多くが長距離サイクリングを経験しており、中上級者（2 回以上経験者）は 72% であった。また、回答者のほとんどがビワイチを知っており、走ったことのある割合は 46% であった。今回のサイクリング目的は、サイクリングが最も多い以外は、琵琶湖や景観など、琵琶湖全体を楽しむことが目的で、食事や土産など特定の資源を目的としている傾向は少なかった。ビワイチで走った区間は、琵琶湖全体一周と琵琶湖大橋以北一周回った回答者が最も多く、琵琶湖周辺に分布している文化財に立ち寄れる状況にあるといえる。約 8 割が休憩ステーションに立ち寄っており、文化財関連施設への立ち寄りも一定数いた。ただ、文化財関係だけを巡ってはならず、他に休憩ステーションや公園、食事処などを巡っていた。

(2) 文化財立ち寄りの特徴

立ち寄りがあった文化財のうち、立ち寄った人数が 4 人以下の文化財は 22 か所あった。5 人以上の立ち寄りがみられた文化財（5 か所）は、いずれもメディアに掲載されており、ビワイチから 2.5 km 圏内の、ビワイチよりも琵琶湖寄りに位置していた。ビワイチ経験による差異から見ると、ビワイチ経験者は一人当たり平均 3.4 か所立ち寄ったのに対し、ビワイチ未経験者は一人当たり平均 1.72 か所に立ち寄っており、ビワイチ経験者は未経験者に比べて多くの文化財に立ち寄る傾向にあった。立ち寄った文化財の分布から見ると、ビワイチ経験者はビワイチから離れて回り道行動をする傾向にあった。サイクリング初心者は一人当たり 1.65 か所に立ち寄り、中上級者は一人当たり 4.13 か所に立ち寄っており、

サイクリング中上級者の方が顕著に文化財に立ち寄る傾向が強かった。中上級者のみ立ち寄った文化財は 17 か所あり、ビワイチから離れており、地勢が厳しく交通の不便な立地であった。サイクリング中上級者の方が文化財に立ち寄り、休憩をとる傾向が見られた。初心者は、ビワイチから近い文化財で、休憩するよりも見学する傾向がみられた。立ち寄りの見られなかった文化財の特徴として、国以外から指定登録を受け、ウェブサイトに掲載されていないビワイチから近い文化財か、ビワイチから遠い山地と丘陵地にある文化財であった。

4. 考察と提案

文化財だけを巡る自転車利用者はいない一方、文化財で休憩利用をするサイクリング中上級者が比較的多かったことから現在は、例えば休憩ステーションと文化財の位置関係を検討し、休憩ステーションで休憩して文化財で見学利用するなど、一連の自転車利用の中で文化財に立ち寄るような想定がなされていないことがうかがえる。ウェブサイトに掲載されていない文化財は立ち寄られない傾向にあったことを考えると、自転車利用と文化財利用の関係を構築し、それを発信していくことも検討すべきといえる。一方、自転車利用者を文化財に立ち寄らせるために、文化財と自転車利用との連携がすべき、例えば、自転車とある歴史ストーリー関連の文化財巡りイベント開催する。サイクリング事業推進の同時に文化財の知名度を上げる、その結果、好循環が生まれる可能性がある。

参考文献

1. 国土交通省資料 サイクルツアー推進事業概要. 2021
2. 矢島拓弥、後藤春彦*、山崎義人、遊佐敏彦. 自転車利用者の観光地における行動実態—「回り道行動」に着目して—. 2011
3. 西村圭太、杉本興運、菊地俊夫. コミュニティサイクル利用観光者の回遊行動特性—埼玉県川越市を事例に—. 2018
4. 自転車道等の設計基準解説. 昭和 49 年 10 月

Abstract: The purpose of this study is to investigate the real state of cyclists' stay on cultural property when they carry out the widespread "detour activities" around Lake Biwa. It also illustrates the relationship between bicycle use and the application of cultural property. Specifically, the following two points will be clarified.

- (1) The relationship between the established bicycle route and cultural property.
- (2) The conditions of cultural assets that induce cyclists to implement "detour activities".

To explore the possibility and realization of cooperation between cultural property and bicycle routes in Lake Biwa in the future.